

学校だより

10月号

平成28年 9月30日発行
さいたま市立本太小学校
Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

十三夜の月に想う ～ 少し足りないくらいがちょうどいい～

校長 井出 了一



9月24日(土)の運動会には大勢の皆様にお越し頂き、子どもたちへの温かい声援、有難うございました。また今年も「おやじの会」をはじめ、多くの保護者の方々に校庭の整備や万国旗付け等をお手伝いいただきました。午後から雨が予想されたため、時間の繰り上げやプログラムの変更などありましたが、様々な御対応、本当に有難うございました。お蔭様で、児童が練習してきた種目はほぼ実施できました。しかし、PTA種目や幼童競走(未就学児)など、せっかく準備いただいた皆様には申し訳ありませんでした。この後、秋の深まりとともに、修学旅行や遠足、音楽会なども予定しています。学習も行事も充実させて「実りの秋」にしたいと思います。引き続き御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

前号の文末で十五夜(9月15日)にふれましたが、今年の「中秋の名月」は薄曇りでした。せっかくススキやお団子を用意したのに、ぼんやりした月しか見えなかったという御家庭も多かったと思います。季節は違いますが「菜の花や 月は東に 日は西に」の句の通り、西の空に太陽が沈む頃、東の空から満月が上がってきます。その後、月の出の時刻は毎日数十分ずつ遅くなっていき、次の晩が「十六夜(いざよい)」、十七夜は「立待月(たちまちづき)」、十八夜は「居待月(いまちづき)」、十九夜は「寝待月(ねまちづき)」・・・と続きます。

「十六夜」：なかなか出てこないという意味の「いさよう」が語源といわれています

「立待月」：夕方、月の出を、今か今かと「立って待つうちに出てくる」くらいの月

「居待月」：居は「座る」の意味、立って待つには長すぎて「座って出るのを待つ」月

「寝待月」：月の出は更に遅くなり「待ちきれず寝た頃に出てくる」月

お月見というと旧暦8月15日の十五夜(中秋の名月)がもっとも有名ですが、古来もうひとつ、旧暦9月13日の「十三夜」も美しい月だと重んじられてきました。一般に十五夜に月見をしたら、十三夜にも月見をすると縁起が良いとされています。十五夜はサトイモを供えることが多いため「芋名月」と呼ばれていますが、十三夜は「栗名月」または「豆名月」「後の月」などと呼ばれています。

今月13日が「十三夜」です。満月2日前の「まん丸にはちょっと足りない月」ですが、これを愛でるのも日本独特の「わび・さび」の感覚でしょうか。生け花の世界でも、非対称の方が迫力があり良いとされているそうです。また望遠鏡で眺めても、欠け際のクレーターがくっきり見え、真正面から光が当たってのっぺりした満月より、ずっと見応えあります。普段の生活でも、あまり欲張らず、少し足りないくらいが丁度良いのかもしれないかもしれません。十五夜の頃は、秋雨でぐずついた空が多いのに対し、十三夜の頃には秋も深まり乾燥した空気に覆われます。このため、すっきり晴れることが多いようで「十三夜に曇りなし」という言葉もあります。秋の夜長、お子さんと外に出て、名月を眺めてみてはいかがでしょうか。



【昨年の十三夜 撮影:井出】